

[経営管理研究室]B. 林業労働に関する研究

吉良, 今朝芳
九州大学農学部附属演習林 : 教務員

黒田, 迪夫
九州大学農学部林学科 : 助教授

<https://doi.org/10.15017/1456225>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和40年度, pp. 61-62, 1966. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



経営管理研究室

A 林業経営に関する研究

1. 椎茸生産に関する経営学的研究（第5報）——協業経営について——

青木 尊重・吉良 今朝芳

わが国の農林業協業化の動向は、いろいろの矛盾に直面しつつも、矛盾の意味を自覚した農民自身が、この問題を解決するための唯一の道として、みずから協業化の道を選び、みずからがもりあけてまた農林業構造変革のためのたゝかいであるとする。この点において大きな歴史的意義をもっている。

そこで今回は、この協業経営をとりあげ、実態分析を中心にこの問題の解明を行なわんとしたのである。一方これとは対象的演習林椎茸生産の場を考察の一端としながらその事例を生椎茸生産部門の協業経営にもとめ福岡県京都郡犀川町喜多良部落の椎茸生産組合をとりあげて、協業体の背景、協業対参加組合員の個別経営の基盤、協業体の経営内容を明らかにし報告した。（76回日本林学会大会研究発表 No. 223）

2. 生椎茸の価格変動分析（Ⅰ）

吉良 今朝芳

生椎茸の価格は野菜と同じように一般的に変動が激しいものと見做されている。そのため今後の需給関係と価格変動が一つの問題点としてあげられている。そこで、この生椎茸価格の変動要因を需給量から統計的手法をもちいて分析し、考察してみた（第21回日本林学会九州支部大会研究発表、林政）宮崎演習林における椎茸生産に対する価格の考察にも一部つながるものである。

B 林業労働に関する研究

1. 林業労働の現状分析（Ⅰ）——福岡県久山町久原地区の調査より——

吉良 今朝芳・黒田 迪夫

昭和30年頃よりわが国経済の高度成長に伴ない、農山村から都市の第2次、第3次産業へ労働力の流出が増加したため、地元の農山村では農業や林業の労働力の確保がしだいに困難になりつつあるといわれるが、その実態はどうか。この調査はこのような視点から九州大学粕屋演習林をもつ福岡県粕屋郡久山町久原地区（旧久原村）で、林業に雇用され

る労働力の実態を調べたものである。

その調査結果、この地区の林業労働、とくに育林労働は農業との兼業労働によって遂行されている場合が多い。この林業労働者の農業経営規模をみると経営規模は比較的大きな農家であり、しかも世帯主が多い。そのため当然年令は高く、労働力としては老令化してきている。

また、近年林業経営で深刻な問題として育林労働者の確保、とくに若年労働者の確保があげられている。ところが育林労働では季節性が強く、そのため労働の通年化が困難となり、したがって雇用は間断的となり、身分も不安定な現状である。このような作業条件がこの地区の農家労働力を都市へ流出させ、通勤労働者化する一つの要因をつくり出しているといえる（第20回日本林学会九州支部大会研究発表——都市近郊農山村における林業労働の実態——、および九州大学演習林集報に発表予定）

2. 林業経営における労働管理の基礎的研究（Ⅰ）

塩谷 勉・吉良 今朝芳

林業経営における労働の問題は、最近とくに重要視されているところである。この研究は林業経営における労働管理に関する基礎的な研究であるが、その立証の場、すなわち調査対象を九州大学演習林にもとめ問題の解明を行なうことをこの研究の目的とし、調査研究をすすめてきている（九州大学演習林集報に発表予定）